寄稿

中東に生活する日本人の意識調査
ー中東以外のイスラム国の調査も終えて

谷川　達夫（たにがわ　たつお）
特定非営利活動法人国際社会貢献センター
大学講座等グループコーディネーター
元住友商事株式会社

1．中東地域研究プロジェクトへの協力

2006年末から文部科学省の「ニーズ対応型地域研究推進事業」の1つである中東地域研究プロジェクト「アジアの中の中東：経済と法を中心に」（研究代表者：加藤博一橋大学大学院経済学研究科教授）に、国際社会貢献センター（ABIC）がスタート時点から協力することになった。

この調査の目的は、日本と中東の間の相互理解の促進であり、具体的には、日本と中東の間に観察される認識・評価上のミスマッチを解消し、中東を日本にとって身近なものにすることである。そのため、研究の一環として、中東に関係する、あるいは関係してきた日本人の対中東・イスラム観を明らかにすることを目的にアンケート調査を実施した。さらに、2008年には、中東関係者との比較を目的にして、中東以外のイスラム国（インドネシア、マレーシア、パキスタン、ウズベキスタン、カザフスタン、ナイジェリアの6ヵ国）の関係者に対しても、同様の内容のアンケート調査を実施した。

アンケートに対する回答数は、現在、中東、中東以外のイスラム国に長期滞在している日本人が、それぞれ405名、88名、かつて中東、中東以外のイスラム国に滞在した経験のある日本人は、それぞれ84名、143名である。現在、現地に滞在する日本人に対する調査については、各国の日本人会、かつて現地に滞在した経験のある日本人に対する調査については、ABICを通して行われた。このような調査はほかにあまり例を見ない、大変貴重なものである。ご協力いただいた現地日本人会、商社海外店所、それにABIC会員の皆さまに、あらためて厚くお礼を申し上げる。本稿では、このうち、かつて現地に滞在した経験のある日本人に対する調査に絞って、その紹介を試みたい。

2．中東、中東以外のイスラム国に滞在経験のある日本人への調査結果

ABICの中東駐在経験者は、判明分で134名（全会員の約7％）、上記の中東以外のイスラム国は204名（約10％）である。出張経験者を入れると非常に多くの人が、中東あるいはそれ以外のイスラム国を訪れている。調査においては、現地での日常生活や職場の経験について質問しているが、中東やイスラムという宗教に対する印象については、赴任前、駐在中、帰国後に分けて詳しく聞いている。調査で明らかにできた時期は、ABIC会員の中東駐在が本格化した1950年ごろ以降である。調査結果の基礎データおよび単純集計は、当プロジェクトのホームページで公開しているので参照されたい。

http://www.econ.hit-u.ac.jp/~areastd/index.htm

また、この意識調査のさらに詳しい分析は、4冊の調査報告書として刊行され、同じホームページでも公開されているので、そちらを読んでいただきたい。

以下、調査の分析の視点、調査から明らかになった主な点、今後の調査結果の利用などについて簡単に述べたい。

(1)　分析は、調査対象者の赴任時期が1979年のイラン革命までの時期、その後の1991年の湾岸戦争までの時期（1980年代）、そして現在までの時期（1990年代以降）の3つに分けて行った。これは中東の現代史の中で、1979年のイラン革命と1991年の湾岸戦争が非常に大きなインパクトを中東の政治経済に与え、中東に駐在する日本人駐在員の生活や意識にも大きな影響を与えたことが予想されたからである。事実、この分析結果は、この予想が正しかったことを明らかにした。中東以外のイスラム国では、中東の革命や戦争の影響は直接波及していないが、駐在員の赴任前後のイスラムに対する印象には影響を与えている。

(2)　調査で明らかになったもう一つの興味深い点としては、現地社会やイスラムについて赴任前、駐在中、帰国後で意識が変化している人が多いということである。赴任前の印象は、内戦や自爆テロなどの影響から悪い傾向を持っていたが、赴任後の現地の社会に対する印象については、どの時代の赴任者も50％以上の人が良くなったと答え、悪くなった人に比べて圧倒的に多い。この点は、現地社会に対する印象も、イスラムに対する印象もあまり変わりはない。赴任前の知識や情報は正確ではなく、赴任して初めて現実を知り、意識が変わったと述べている人が多いのが印象的であった。

(3)　このプロジェクトはこれから1年半続く。今後は、この意識調査の成果をどのように活用し、社会に還元していくかを考えていきたい。駐在員や出張者を中東やそれ以外のイスラム国に派遣している会社の、赴任前研修の教材としてもすぐに活用できるのではないかと思う。また、このプロジェクトの期間内には無理かもしれないが、このような調査が将来定期的に行われることは大変有意義であると考える。そのほか、調査での問題関心や分析結果については、以下の機会においても、折につけ述べているので、興味のある方はお読みいただきたい。

（刊行された調査報告書、左から）
No.1 日本人の対中東・イスラム観―現地長期滞在者
No.2 日本人の対中東・イスラム観
―駐在経験をもつビジネスマン
No.7 The Perception of Japanese Abroad Towards the Middle East―Past and Present
No.9 日本人の中東以外のイスラム社会観
―長期滞在者ならびに駐在経験者

①　ABIC Information Letter No.23 2008年11月「中東に駐在した人たちの想い」

②　日本貿易会月報2009年1月号P70「中東に働く外国人の意識（日本人駐在員のステータスの特徴）」

③　日本貿易会月報2009年7・8月合併号P70「日本人の対中東以外のイスラム教国・イスラム観―現駐在員ならびに駐在経験者」

(4)　ABIC会員の多くは世界各国に駐在し、言語や生活文化、それに宗教も異なる国に住んだ経験を持っている。その経験を活かし大学や社会人講座で講義をし、小中高校国際理解教育支援、留学生支援・交流、在日外国人子女教育支援、および途上国支援や国内外中小企業へのビジネス支援などなどで活躍している多数の会員がいる。今回はその会員の中東やそれ以外のイスラム国での経験を総合的に調査したもので、ABICとしての意義も大変大きいと思う。もし可能であれば、中東やイスラムというテーマから外れるが、中南米などの地域においても同様の調査ができれば、駐在経験が個人に与える影響の地域間の比較などもでき、大変興味深い。いずれにしてもABICとしてもこの調査の成果の利用を考えていきたい。